

小児看護学方法論Ⅱ	2年・後期	1単位	講師 宮澤由佳 他
科目カテゴリー	看護提供のあり方	科目ナンバリング	33210752

1. 授業のねらい・概要

健康を障害されることが、子どもと家族に与える影響や、子どもの状況や環境が子どもと家族に与える影響について学び、子どもと家族に必要な看護を学習する。また、子どもにおける疾病の経過の特徴と看護について学習する。さらに、健康問題を抱えた子どもの看護を展開するための知識と方法を学習する。

2. 到達目標

1. 健康障害を持つ子どもと家族の看護が理解できる。
2. 発達障害のある子どもと家族の看護が理解できる。
3. 疾病の経過の特徴と子どもと家族の看護が理解できる。
4. NICUにおける子どもと家族の看護が理解できる。
5. 虐待を受けた子どもと家族の看護が理解できる。
6. 事例を用いて健康障害をもつ子どもの看護過程を展開できる。

3. 授業の進め方

講義・演習を行なう。視聴覚教材およびグループワークを取り入れ、内容理解を深める。

4. 授業計画（演習）

1. 病気・障害を持つ子どもと家族の看護 障害のある子どもと家族の看護 (宮澤由佳)	7. 周手術期の子どもと家族の看護①(宮澤)
2. 子どもの状況(環境)に特徴付けられる看護 子どもの虐待と看護 (宮澤)	8. 周手術期の子どもと家族の看護②(市村)
3. 慢性期にある子どもと家族の看護①(宮澤)	9. 終末期の子どもと家族の看護 小児看護過程概説 (市村)
4. 慢性期にある子どもと家族の看護②(市村路子)	10. 小児看護過程演習 (宮澤)
5. 急性期にある子どもと家族の看護①(宮澤)	11. 小児看護過程演習 (宮澤)
6. 急性期にある子どもと家族の看護②(市村)	12. 小児看護過程演習 (宮澤)
	13. 小児看護過程演習 (宮澤)
	14. 小児看護過程演習 (宮澤)
	15. 小児看護過程演習 (宮澤)

5. 成績評価の方法・基準

定期試験（受験資格は2/3以上出席した者）70％，レポート課題等30％で総合的に評価する。

6. テキスト・参考文献

テキスト：系統看護学講座 小児看護学1 小児看護学概論・児臨床看護学総論 医学書院
系統看護学講座 小児看護学2 小児臨床看護各論 医学書院
ナーシング・グラフィカ 小児看護学② 小児看護技術 メディカ出版

7. 準備学習に必要な時間，又はそれに準ずる程度の具体的学習内容

次回講義内容のテキスト該当箇所の予習（30分程度）と復習（30分程度）をすること。

8. 受講上の留意事項

小児看護学概論，小児看護学方法論Ⅰで学習した内容と関連させながら主体的に参加することを期待する。
小児看護学実習の先修科目である。

9. 課題に対するフィードバックの方法

試験実施の際に傾向や解答を口頭で説明するか試験実施後解答を掲示する。

10. 卒業認定・学位授与の方針と街頭授業科目との関連

必修科目であり，修得できない場合進級不可となる。

11. 実務経験のある教員等による授業科目

医療機関における看護師としての実務経験を活かして，講義・演習を行う。